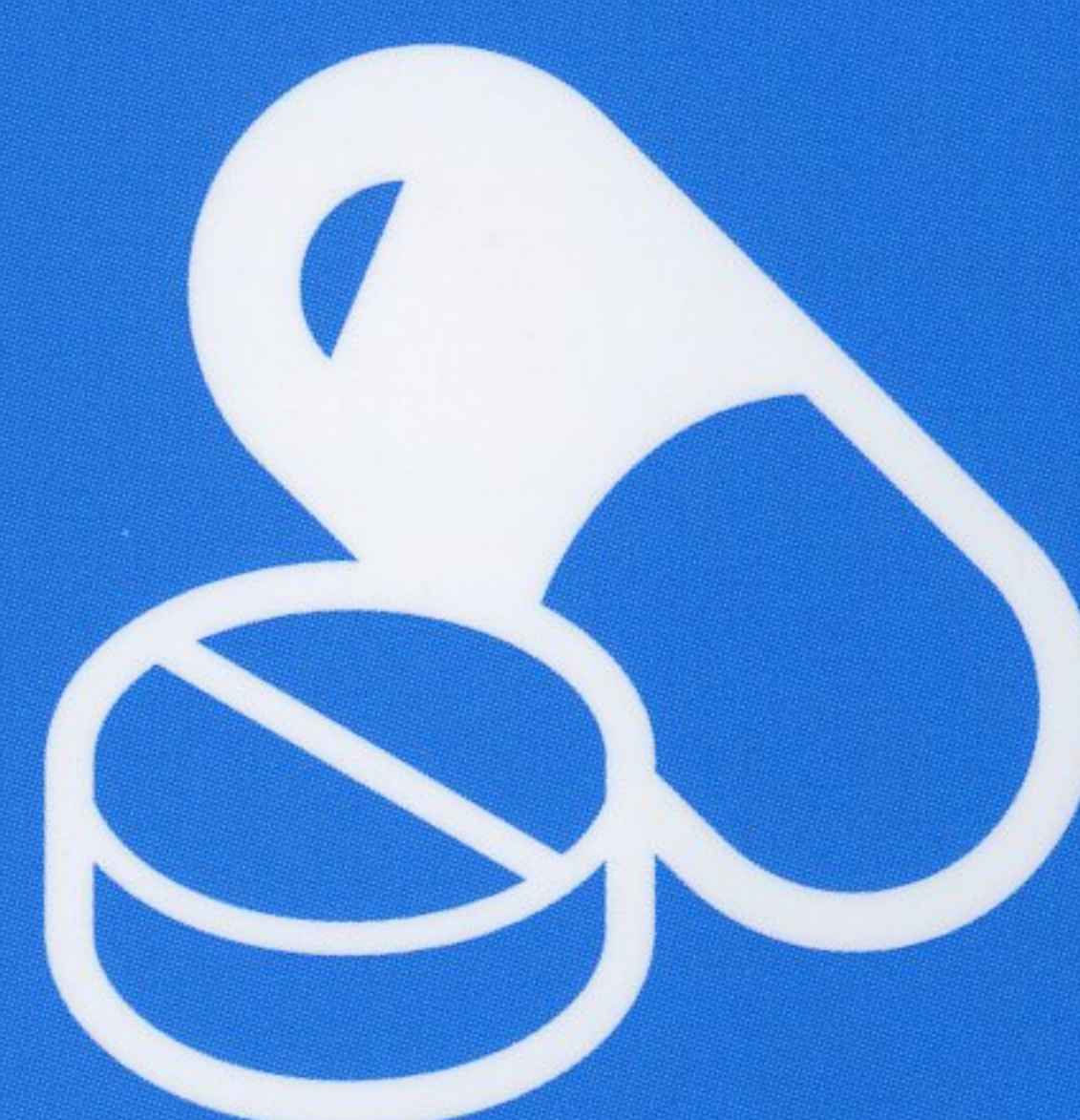
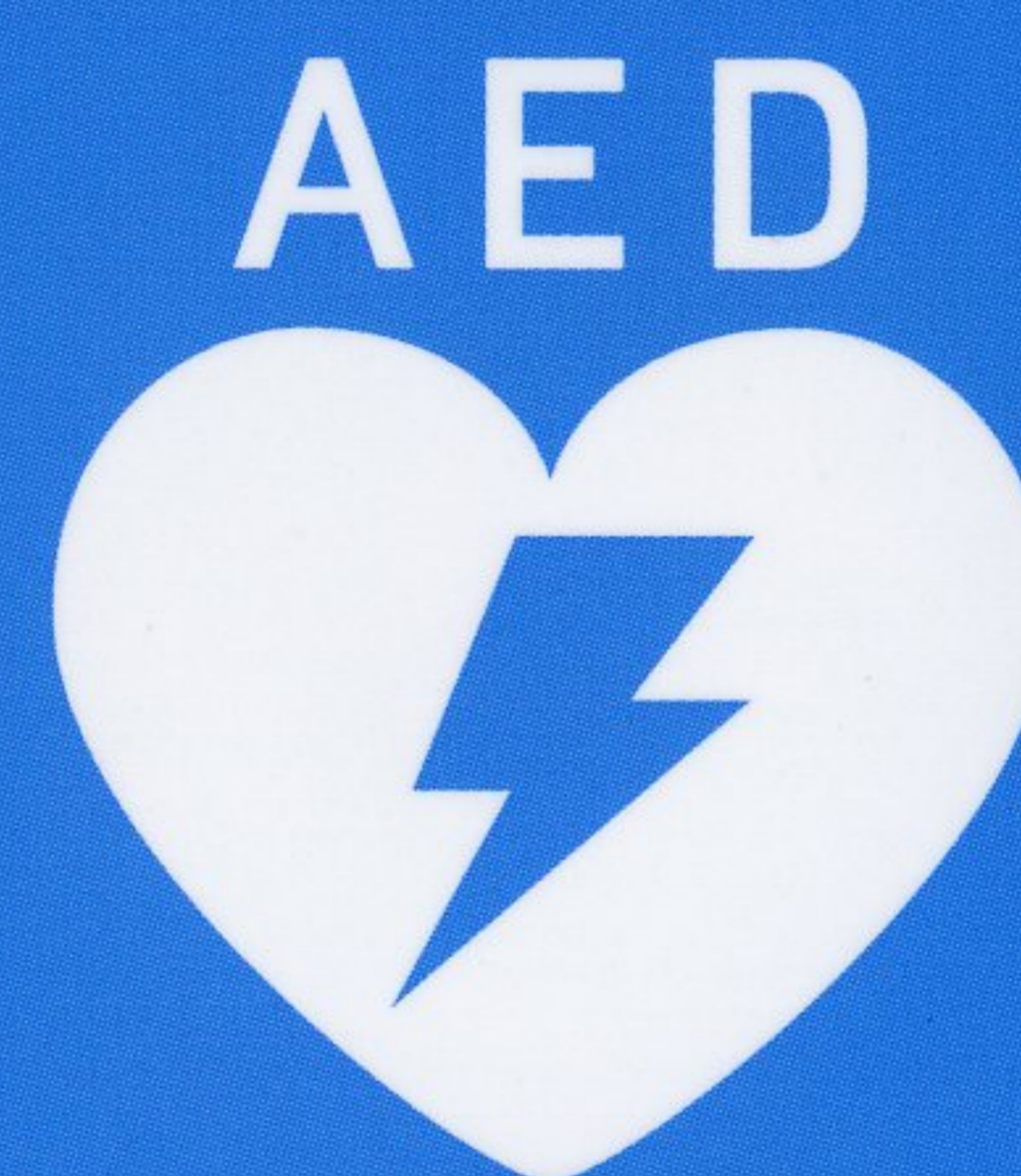
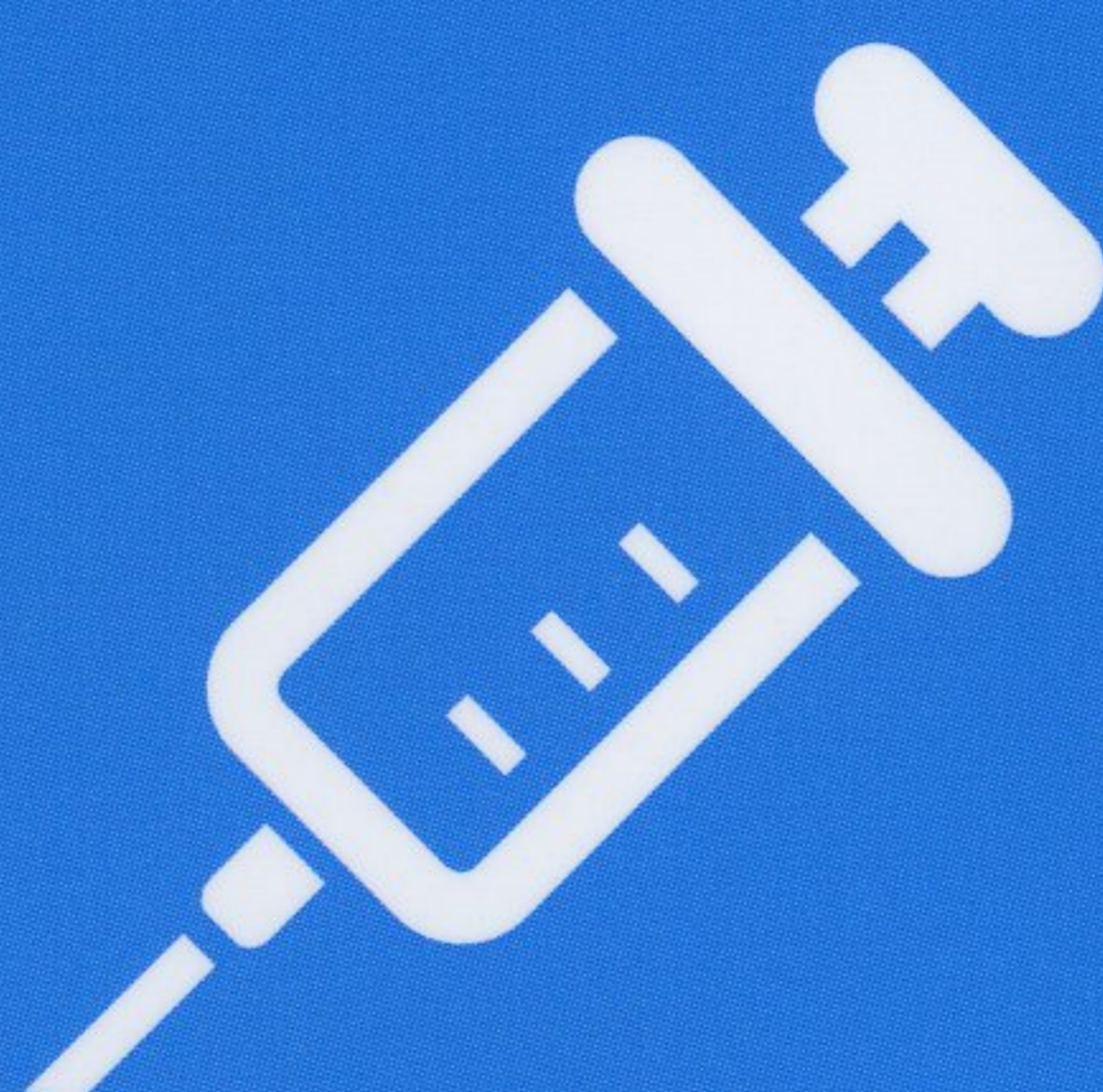


大分の頼れる お医者さん

保存版

おおいた

500円
本体価格463円



専門医に聞く気になる**症例31**を紹介

骨・関節感染症について

恐ろしい菌との戦い

洗浄と高気圧酸素治療の有効性

今でも怖い病気

ガス壊疽や壊死性筋膜炎は、太古より人類を悩まし続けた病気の一つです。近年でも、戦時下では爆弾などによってけがをした上に、その爆弾で土が掘り起こされ、地中の菌に感染した結果、ボスニアの戦争では死者全体の4分の1が実はこの病気で亡くなったという報告がされているほど。「人食いバクテリア」の異名をとるほどの怖い病気です。

時代が豊かになり、栄養状態や衛生面が改善され、さまざまな抗菌薬も開発されている現在では、こういった感染とは無縁になっていくのかと思うと、案外そうでもなく、依然として難治性の疾患であることに変わりありません。骨・関節感染症には

大きく分けると、口や鼻から入った細菌が骨に到達してしまう「血行性骨髄炎」と、骨接合術や人工関節置換術後に骨髄炎を発症する「外傷性骨髄炎」があります。

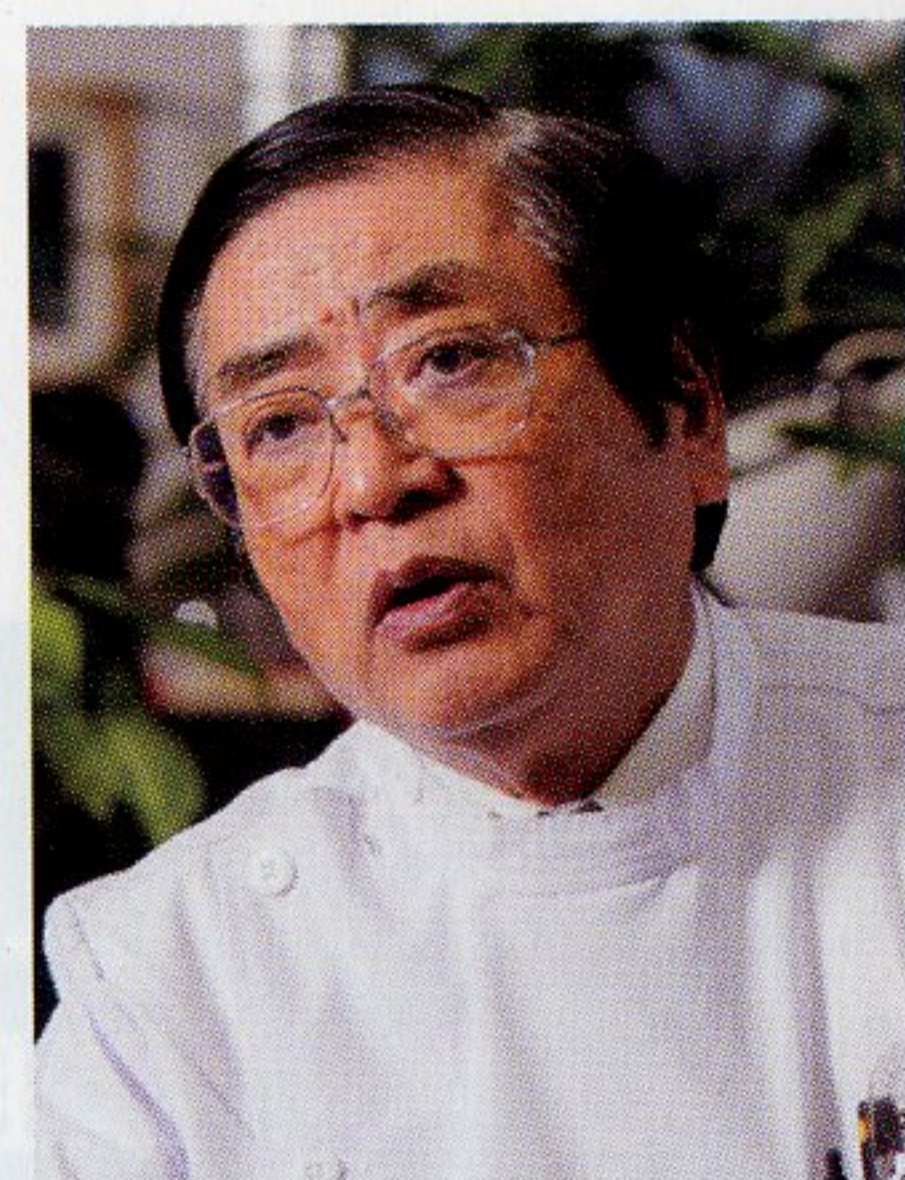
近年では、メチシリンなどの抗菌薬に耐性を持つ黄色ブドウ球菌が現れ、糖尿病によって傷などの自覚症状も全くないままにいつの間にか感染し、重症化するというケースなど、この病気の原因や背景は一層複雑になっていくのも確かです。

いったん発症してしまえば、あつとつ間に悪化したり、何度も発症を繰り返したりと、治りにくく非常に厄介な病気が骨・関節感染症です。そこで、長年の研究と、専門医として多くの症例を扱う中で、大きな効果を生んでいる治療法について紹介します。

世界に先駆けた研究から

○「川島式局所持続洗浄療法」

とにかく、相手は骨をむしばむ厄介な「細菌」です。これを退治しない限り炎症が治まらず、症状は進み、いつたん治まったように見えても何度も再発する可能性があります。治療法としては、患部をかき出す、あるいは腐骨を摘出するといった手術もありますが、局所に抗生物質を注入するだけでなく、病巣部の汚れた体液を排出し、患部を徹底して洗浄し続ける「川島式局所持続洗浄療法」がとても有効です。というのも、以前、20回も手術を受けていた難治性骨髄炎の患者さんにこの治療法を適応したところ、全快した例があり、以来、広くこの治療が行われるようになってい



社会医療法人玄真堂
川島整形外科病院
理事長 川島真人

profile

かわしま・まひと/昭和44年東京医科歯科大学医学部卒業。虎の門病院、九州労災病院を経て昭和56年開院。医学博士。日本整形外科学会専門医、同リウマチ医、スポーツ医、リハビリテーション学会臨床認定医他。大分県病院協会会長、日本高気圧環境・潜水医学会代表理事、大分大学医学部臨床教授、日本骨・関節感染症学会名誉会員。

○「高気圧酸素療法」

「高気圧酸素療法」とは、潜水士が骨壊死を発症する割合が異常に高いという事例から、潜水病(減圧症)との関係を探る中で開発した治療法です。病巣部の周辺では炎症に伴う血管栓塞が起きていて、虚血状態になっていることから壊死骨が見られます。厄介なことに壊死骨の周りでは、細菌が特殊なシールド(膜)を張って抗生物質を受け付けなかったり、細胞や液性抗体の作用を退けたりするのです。これが再発を繰り返す原因だったり、治りにくい原因にもなっています。そこで、通常1気圧の酸素を2〜3気圧と、極端に高い気圧をかけることで、吸入させることにより酸素濃度が15〜20倍とたくさん供給され、組織の修復が早まり、血管の収

壊疽性筋膜炎 症例

※55歳、女性、重度糖尿病

【治療後】



▲治療を重ね、症状が飛躍的に回復

【治療前】



▲入院時は小さなできもの程度だった状態が1週間でここまで悪化

感染の鎮静

【治療後】



▲「閉鎖式持続洗浄療法」を行い、感染が鎮静した状態

【治療前】



▲入院時の感染性偽関節の状態

骨髄炎は以前、子どもたちに多くみられる病気でしたが、今では生活習慣や文明病などと結びついて、とても深刻な、ある意味で新しい時代の感染症として注意が必要な病気にもなってきています。

病気にならないための活動も

縮作用も高まります。また、急激に増えた酸素は、細菌に対しても大変有効です。細菌の増殖を抑え、白血球の働きを助け、殺菌作用を高めるのです。また、上昇した圧力によって血管内の気泡や腸内ガスを縮小させ、血流を改善します。この「高い気圧」の状況(環境)を人工的に作るのが「高気圧酸素治療装置」で、当院では大型の多人数用も含め3台所有しています。

例えば糖尿病性壊疽も、糖尿病患者が増加する傾向にある現在では、この病気を発症しやすい環境がそれだけ多くの人の体内で作られているという事です。靴ズレ程度からでも簡単にこの病気を発症するかもしれせん。また高齢化も大きな要因です。体力、筋力の衰えは、免疫力の低下にもつながります。転倒しやすくなれば骨折もします。日常生活の中でできた小さな傷さえ、この病気の原因になりかねません。高齢化とともに細菌と戦う力が弱まれば、些細な傷からでもこの病気を発症する確率が、どうしても上がってくるのです。

当院では、この病気につながる糖尿病や、高齢化に伴うさまざまな衰えを予防する専門外来や講習会があり、病気の原因、要因を作らない取り組みを積極的に行っています。

また、病気や治療の経験をした患者さんや、その家族が自発的に立ち上げた友の会があります。その輪は全国に広がっていて、この病気を経験した方でないといわれない不安や苦しみ、それを支える家族の思いなどを共有するために活動しています。

押さえておきたい チェックポイント

失われた骨や皮膚を取り戻して行く

昭和56年〜平成23年の30年間で、674例の骨髄炎治療のうち、局所持続洗浄、高気圧酸素治療いずれにおいても改善が見られなかった例は、前者で6.5%、後者では1.4%です。炎症を鎮静化するだけではなく、新しい組織を作ろうとする症状が見られる点が大いと言えます。

専門医による早期診断を

生後間もない赤ちゃんから高齢者まで発症しうる病気です。高熱、激痛、局所の発赤、熱感、圧痛、腫脹の自覚症状もあります。が、いずれにしても早期治療開始が重要です。そのためには専門医による確実な早期診断が不可欠となります。

患者さんに一言

骨髄炎が厄介なのは、慢性化して繰り返されること。それは病巣部がこの病気特有の低酸素状態にあるからです。つまり、酸素が健全に送り込まれれば細菌を殺し、骨髄組織が再生され、治癒していきます。それを手助けするのが私たちの治療の基本で、その見極めが専門医としての役目でもあるのです。



理事長 川島 真人

DATA

社会医療法人玄真堂 川島整形外科病院

tel.0979-24-0464

http://kawashimahp.jp/

理事長 川島 真人 院長 川島 眞之

川島整形外科病院 tel.0979-24-0464

理事長 川島 真人 院長 川島 眞之

- 住所 / 中津市宮夫17
- 駐車場 / 50台
- アクセス / JR中津駅からバスで約10分 (「宮夫」バス停から徒歩0分)
- 受付時間 / 8:00~17:00 土曜8:00~12:00※救急患者は24時間体制※脳神経外科は第2・第4水曜8:00~12:00
- 休診日 / 土曜午後、日曜、祝日
- 診療科目 / 整形外科・リハビリテーション科・リウマチ科・脳神経外科

かわしまクリニック tel.0979-24-9855

所長 田村 裕昭

- 住所 / 中津市宮夫11-1
- 駐車場 / 130台
- アクセス / JR中津駅からバスで約10分 (「宮夫」バス停から徒歩0分)
- 受付時間 / 8:00~12:00/月~金曜14:00~17:30
- 休診日 / 土曜午後、日曜、祝日
- 診療科目 / 整形外科・リハビリテーション科・リウマチ科

